

ブロードウェイミュージカル『キャッツ』作品解釈

ロイド・ウェバーの世界

総合政策学部4年
曾原 達裕
71104824

1.研究背景

ブロードウェイ・ミュージカル『キャッツ』は T.S.エリオットの詩集『ボッサムおじさんのネコと付き合う方法』を原作とし 1981 年にロンドンのウェストエンドで初上演されて以来日本でも劇団四季によって上演され世界中の人々から支持を得ているミュージカルである。作曲家アンドリュー・ロイド・ウェバーの楽曲に乗せて繰り広げられる独特の世界観は圧巻で、キャッツを観たことがない人でもメイン曲『メモリー』は聞いたことがあるだろう。

しかしながらその舞台の内容そのものはこれといったストーリーが無く、ダンスと歌だけで“物語”が進行されるという非常に抽象的な内容である。にも関わらず多くの人を感動させる要素というのはいったいどこにあるのか、また“物語”もどういった解釈をすることができるのか、世界観はどういったものなのか、ということを究明していくなど作品の抽象的な部分を解釈していくことで初めてキャッツを観る人や、キャッツを観ても理解できず面白くなかったと言う人にとっての一種のガイドラインのようなものを作り観劇の際の手助けとなれば、と考えた。

2.仮説

観劇の際最も障害となっている部分は世界観であると考えられる。その世界観を、舞台となる都会のゴミ捨て場、ジェリクルキャッツとは一体何なのかということを中心に切り開いていくと何かしらの具体的なストーリーが浮き上がってくるのではないか。

またこの作品に主人公は存在しないが、一応主人公であると考えられるネコ、グリザベラは詩集には存在せずミュージカルのみに登場するネコである。そのグリザベラを登場させメモリーという曲を歌わせた作曲家のアンドリュー・ロイド・ウェバーには何かしらの意図があるのではないかということから調査していく。

3.手法

一番抽象的で理解するのが困難であり、観劇の際の妨げになるキャッツの世界観を軸に考える。主に原作の詩集、劇団四季の歌詞(台詞)を中心に調査していき参

考程度に海外版の舞台 DVD も参照する。また作曲家であるロイド・ウェバーの背景にも着目して進めていこうと思う。

また更に現在福岡で公演が上演中であるので自身で足を運び劇場に居るお客様に直接インタビューや聞き込みをできれば、とも考えている。

4.参考文献

キャッツーポッサムおじさんの猫とつき合う法／T.S.エリオット

キャッツ(DVD)1998年版

キャッツ オリジナルキャスト盤(CD)／劇団四季

浅利慶太とロイド・ウェバー／安倍寧

猫たちの舞踏会 エリオットとミュージカル「キャッツ」／池田雅之

深読みミュージカル／本橋哲也